

エピソード54

保護者が日本の学校に子ども
がなじめるか心配しています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。エデュサポネットのファ
シリテーターです。



小学校の中学年を担当した時の
経験をお聞きします。

ハナさんは、日本人のお父さんと南米出身
のお母さん、妹の4人家族です。
お母さんの国で生まれ育ちました。

お父さんの帰国に伴い、家族で日本に
やってきました。年度の途中で、私の
学級に転入しています。





ハナさんと保護者に初めてあったときの様子を聞かせてください。

初めての日本で、言葉はある程度理解できましたが、日本の文化も学校もわからないことが多く、ハナさんは不安が一杯でした。

お母さんも不安が一杯な様子で、転入初日はお父さんも一緒にやってきました。父方のおばさんが家庭生活等を支援しているとのことでした。





お母さんはどんなことを不安に
思っていたのでしょうか。

とても朗からなお母さんでしたが、
ハナさんが学校になじめるか、勉強に
ついていけるかとても心配していました。

心配するのは当然のことだと思ったので、
支援をいくつか考えました。





支援の内容をおしえてもらえますか。

しばらく登下校にはお母さんが
付きそうとのことでしたから、

登下校時にお母さんとコミュニケーションを
とっていくことで、ハナさんとお母さんの
不安を早く聞いていくことを心掛けました。





他の支援もおしえてください。

友達とは早くなじめるように、休み時間はできるだけ私も一緒に関わったり、席やグループを配慮しました。

学習ではできることと、できないことをできるだけ見とって、個別指導すると同時に家庭学習してほしいことを連絡しました。





学習は、学校、家庭の他にどこかで
支援を受けることができましたか。

日本語の学習を、週に一回程度、市の
教育委員会のセンターで学習することが
できました。

NPO法人の支援教室にも通っていました。
どちらにもお母さんが付き添って通うことで
力をつけていきました。





お母さんは他の保護者とかかわる
ことはありましたか。

保護者懇談会に出席してもらい
他の保護者に紹介しました。

保護者同士が仲良くなることが
友達との関係にも大切と話しました。





その後、ハナさん、お母さんの様子は
いかがでしたか。

言葉も容姿も日本人とは少し違うハナさんは、
心無い言葉や違和感に悩んだり傷ついたり
したこともありますが、徐々にクラスに
なじんでくれました。

それを見ながらお母さんも安心して
いったように見えました。





なみちゃんの一言

- このエピソードを聞かせてくれた先生から、お母さんの努力を認めながら、できるだけ親しくなれるように話しをしてきた、というお話も伺えました。
- 外国にルーツのある保護者のみなさんが、ちょっとしたことを気軽に話してくれるような関係を学校がつくっていきけるといいですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)